

あそびが いっぱい！

R8.7

保育未来課 子育てコンシェルジュ



暑さが厳しくなってきました。子どもたちもおうちの皆様も、お元気でしょうか。
園に通っている子どもたちは、随分、園生活に慣れてきて、友達や先生と一緒に水を使った遊びを楽しんだり、この時期に姿を見せる生き物と関わったり、夜空の月や星に興味をもって図鑑や絵本を見たりしていることでしょう。
動植物や自然、身近な事象などに興味や関心を持ち、見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わうなど、自らの感覚を働かせながら実際に関わることで、幼児期に育ってほしいいろいろな力が身に付いていきます。体調管理に留意しながら、遊びをしっかりと楽しみ、心も体も元気で過ごせるよう願っています。



「おやさいに、まいにちみずやりをしているよ。」

「ピーマン、はやくおおきなあれ。」

「トマト、なかなかあかくなるいな。」

「きれいなやさいがたべられるようになった。」

「おやさいくいず、おもしろい！」

「おかあさんといっしょに、おりょうりしたよ。」

「おおきいしゃぼんだまが、ふわふわとんでいった。」

「すーぱーぼーるが、たくさんすくえた！

○こもある！」

「ぼくのとくらべてみない？」

「せっけんのあわ、そふとくりーむみたい。」

「あかとあおのいろみず、まぜたらどうなるかな？」



「えんで、ささかざりをつくったよ。」

「たんざくにおねがいをかいた！」

「あいどるになれますように。」

「おつきさま、おおきくなったり、ちいさくなったり、ふしぎだね。」

「よるのおさんぽ、たのしいな。」

「かげえあそび、おもしろい！」

「むしは、よる、どうしているのかな？」

「おほしさまやおつきさまがきれいだね。」

「あまのがわが、みえるかな。」

「なぜ？」「どうして？」「おもしろい！」「ふしぎだね。」

「きれい！」「はっけんしたよ。」・・・

子どもが、いろいろな体験・経験をする中で、心を動かしたり感じたりしたことは、相手に言葉で伝えたり、繰り返し遊んだり試したり、表現したりするなどにつながっていきます。

